

【幸い:happy】

幸いとは？と質問したら、皆さんは、「幸福な生活」と答えるのではないのでしょうか。しかし、聖書で「幸い」といえば、マタイによる福音書の5章が有名です。3～10節『3「心の貧しい者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。4 悲しむ者は幸いです。その人たちは慰められるからです。5 柔和な者は幸いです。その人たちは地を受け継ぐからです。6 義に飢え渇く者は幸いです。その人たちは満ち足りるからです。7 あわれみ深い者は幸いです。その人たちはあわれみを受けるからです。8 心のきよい者は幸いです。その人たちは神を見るからです。9 平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。10 義のために迫害されている者は幸いです。天の御国はその人たちのものだからです。』【3 “Blessed are the poor in spirit, For theirs is the kingdom of heaven. 4 Blessed are those who mourn, For they shall be comforted. 5 Blessed are the meek, For they shall inherit the earth. 6 Blessed are those who hunger and thirst for righteousness, For they shall be filled. 7 Blessed are the merciful, For they shall obtain mercy. 8 Blessed are the pure in heart, For they shall see God. 9 Blessed are the peacemakers, For they shall be called sons of God. 10 Blessed are those who are persecuted for righteousness’ sake, For theirs is the kingdom of heaven.】一般的に考えて、心が貧しい人や、悲しむ者が幸せであるわけがありません。なぜ聖書には、このようなことが書かれているのでしょうか。イエス・キリストは不思議なことを言われます。しかし、それよりも、あとの言葉の方が重要ではないのでしょうか。「天の御国はその人たちのものです。」天の御国である「天国」に行ける人は誰でしょうか。たとえば、電車に乗るにはキップを買って、持っていることが必要です。では、天国へ行くには、何が必要でしょうか。イエス・キリストが話された天の御国のたとえがあります。マタイ22章2・8～14節 『2「天の御国は、自分の息子のために、結婚の披露宴を催した王にたとえることができます。8 それから王はしもべたちに言った。『披露宴の用意はできているが、招待した人たちはふさわしくなかった。9 だから大通りに行って、出会った人をみな披露宴に招きなさい。』10 しもべたちは通りに出て行って、良い人でも悪い人でも出会った人をみな集めたので、披露宴は客でいっぱいになった。11 王が客たちを見ようとして入って来ると、そこに婚礼の礼服を着ていない人が一人いた。12 王はその人に言った。『友よ。どうして婚礼の礼服を着ないで、ここに入って来たのか。』しかし、彼は黙っていた。13 そこで、王は召使いたちに言った。『この男の手足を縛って、外の暗闇に放り出せ。この男はそこで泣いて歯ぎしりすることになる。』14 招かれる人は多いが、選ばれる人は少ないのです。』【2 “The kingdom of heaven is like a certain king who arranged a marriage for his son, 8 Then he said to his servants, ‘The wedding is ready, but those who were invited were not worthy. 9 Therefore go into the highways, and as many as you find, invite to the wedding.’ 10 So those servants went out into the highways and gathered together all whom they found, both bad and good. And the wedding hall was filled with guests. 11 “But when the king came in to see the guests, he saw a man there who did not have on a wedding garment. 12 So he said to him, ‘Friend, how did you come in here without a wedding garment?’ And he was speechless. 13 Then the king said to the servants, ‘Bind him hand and foot, [b]take him away, and cast him into outer darkness; there will be weeping and gnashing of teeth.’ 14 “For many are called, but few are chosen.”】天の御国のたとえとして、結婚の披露宴について話されました。簡単に言えば、天国で催される披露宴に、誰が招かれるかを話されました。誰が招待されたのでしょうか。すべての人が招待されています。しかし、それにふさわしい人は、婚礼の礼服を着た人です。たとえですから、この礼服が何を意味しているかが問題です。聖書は私たちのいのちについて書かれています。いのちを救うために、イエス・キリストが何をしたかが書かれています。イエス・キリストといえば、まず十字架の死が思い浮かぶでしょう。礼服を着るとは、イエス・キリストを信じ、受け入れ、自分のものとすることです。そうすれば、天国で行われる披露宴に招かれます。話を元に戻します。心の貧しい者は天の御国に入ることができます。心の貧しい人とはどういう人でしょうか。心が貧しいとは心が満たされていない、何の喜びもない状態です。伝道者の書12章1節『あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また「何の喜びもない」と言う年月が近づく前に。』【Remember now your Creator in the days of your youth, Before the difficult days come, And the years draw near when you say, “I have no pleasure in them”:】信じるとは信仰であり、イエス・キリストを信じた者です。その者は天の御国に入ることができます。続きは次回に。